

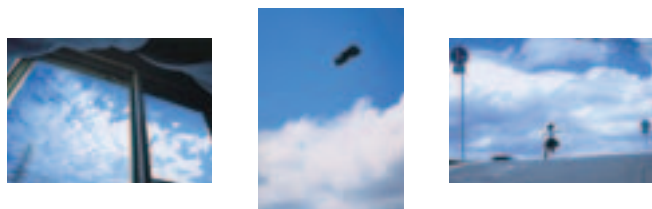
## 銅賞(4名)

仲野 咲季『それぞれの思い』 (島根県立大田高等学校 1年)



いつも一緒にいる父と母だけれど、でも元々は他人同士なのだから、考え方も価値観も違って当然だと思う。だから、一緒にいる姿ではなく、それぞれが別々なところにいるところを撮影しました。家から見える夕日が、それぞれの思いをつないでいるように感じます。

橋村 悠月『Fly from my home』 (山口県立下松高等学校 2年)



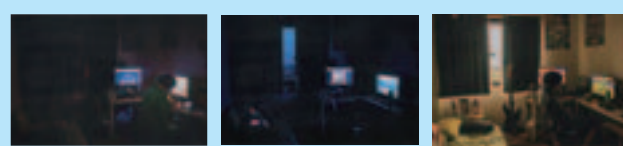
今は誰もが家から出ることをためらう。寂しく佇んでいると青空を映す窓からそよ風が入ってくる。「遊びましょう」と言って頬をくすぐり、白いカーテンと戯れる。お誘いにももっと雲のように外でみんなとお話したいな。行きましようか、どこまでも続く空へ。

## 特別賞(10名)

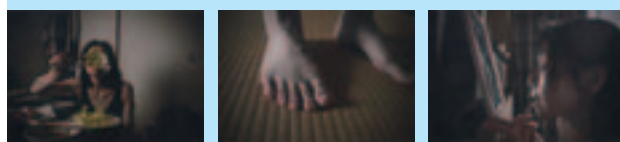
下田 奈々『家族』 (北海道岩見沢高等養護学校 2年)



宇貫 航平『自粛の宴』 (群馬県立前橋工業高等学校 2年)



十林 穂乃香『秘める』 (和歌山県立神島高等学校 3年)



岡崎 ひなた『home』 (和歌山県立神島高等学校 3年)



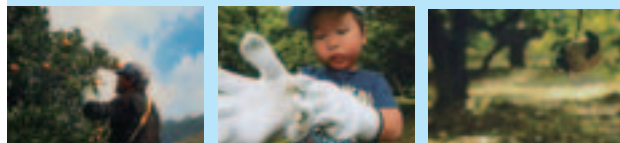
中井 千尋『夕刻』 (和歌山県立神島高等学校 3年)



門田 真亜子『バナナ父』 (島根県立大田高等学校 1年)



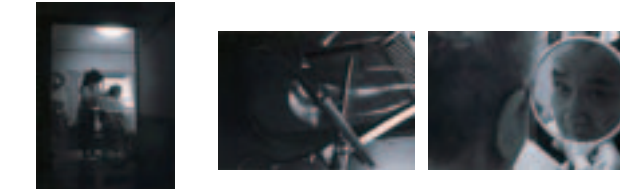
山根 はな『柚子香』 (山口県立下松高等学校 3年)



仲田 理乃『ぼっと染まる』 (山口県立下松高等学校 2年)



小泉 貴翔『廻り髪結い』 (愛媛県立今治北高等学校大三島分校 2年)



古閑 晴菜『夏の終わり』 (八代百合学園高等学校 2年)



## SYAKOU SOLO 2020 ソロ写真甲子園、1370作品から受賞者決まる

「全国の写真好き高校生に、ひとつでも多くのシャッターチャンス<sup>※</sup>を次の未来へつないでほしい。」  
そんな思いから生まれた、今年限定の企画＝「ソロ写真甲子園」。『Home』をテーマに組写真を募集しました。  
3人1組のチームで参加する写真甲子園とは違い、個人(ソロ)でチャレンジできるとあって、予想をはるかに上回る1,370名から応募がありました。

写真部などに所属していなくても参加できるため、「趣味＝写真」の多種多様な高校生から寄せられた千差万別な作品たち。写真甲子園とはまた違った趣をみせる作品の中から、金・銀・銅賞と特別賞(3枚1組)を掲載します。審査委員による作品の講評(どんなところが良かったか)や、奨励賞受賞者(33名)の紹介はソロ写真甲子園のWEBページ(右のQRコード)をご覧ください!



## 金賞(1名)

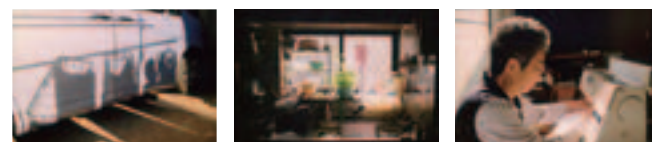
吉田 菜々美『送り火』 (和歌山県立神島高等学校 1年)



これはお盆の時の写真です。コロナ中でのお盆ということで、マスクをして人と間隔を開けたり、お供え物などの焼く時間を短くしたりと色々な工夫をしていました。人が少なく、送り出す時間はその家族で違ってたり、お寺に任せているという人が多かったので、撮るのがすごく難しかったです。この写真は今年しか撮れない、貴重なものだと思います。来年のお盆は家族全員で送り出せるようにと思い、この写真を撮りました。

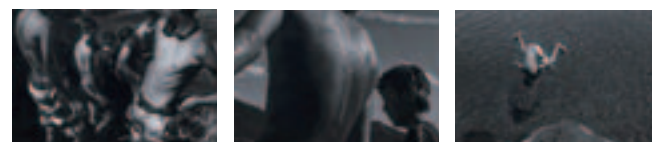
## 銀賞(2名)

岡 優成『In A Daily Life』 (千葉県立四街道高等学校 3年)



新型コロナウイルスによって、私たちが取り巻く多くのことが変わってしまっただけで、当たり前だと思っていた生活が当たり前ではないと気付かされることも多かった。しかし、コロナウイルスによって変わらなかった日常もある。祖母が洗濯物を干す姿。朝日が差す台所。ミシンを使う祖母。そのような毎日繰り返される日常の風景をコロナウイルスによる自粛期間にたくさん撮影した。

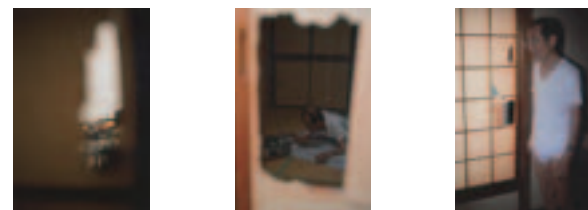
榎本 萌々『Best memories』 (和歌山県立神島高等学校 1年)



夏休みに川で遊んでいる小学生と中学生を撮りました。日頃は、勉強や宿題におわれている学生達。しかし、遊ぶときは、そのことを忘れて無邪気に遊んでいました。たくさんの笑顔とたくさんの笑い声。この学生達を撮っていると、自分も勉強の事を忘れて、一緒に遊んでいるような気持ちになりました。始まったばかりの夏休み。だけど、もう終わってしまう夏休み。もうすぐ再スタートする学校生活のために、みんなで最高の時間を過ごしていました。

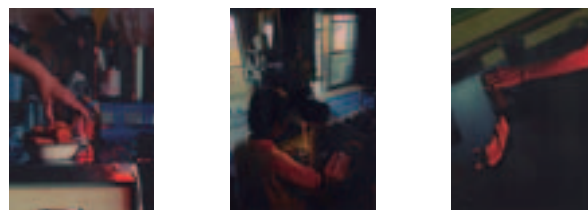
## 銅賞(4名)

渡邊 翔梧『Stay home, stay alone』 (和光高等学校 2年)



お婆ちゃん(妻)が亡くなり1人で暮らすお爺ちゃんの元へ行き撮影した。緊急事態宣言が続き自粛期間が長く続き人ともなかなか会う事ができない中、一緒に暮らす家族だけが唯一の話せる人間。しかしお爺ちゃんはそのような人ではない。一人で暮らし何を考え、何を感じていたのか。それを障子の中から撮影することによって一人の、home aloneの世界を表現した。

登 集斗『食って備えろ!!』 (大阪府立久米田高等学校 3年)



テーマが「Home」ということで、やはりコロナ禍における自粛期間の過ごし方に焦点を絞ろうと考えました。この度の「自粛」ですが、目的は「生き残ること」です。ですので生命活動の中で最も重要である「食事」をコンセプトに、家の中での風景を切り取りました。そして最も意識したのは色づかいで、興奮、気分の高揚を感じさせる「赤」を家での日常に落とし込みました。より写真に生命力を与えたかったです。